

今週のメニュー

[トピックス](#)

豪州グリーンビルディングの Green Star クレジットの動向

[随想](#)

チュニジアの若者たち

(社)日本化学工業協会 若林 康夫

[編集後記](#)

トピックス

豪州グリーンビルディングの Green Star クレジットの動向

グリーンビルディングというと、国内では、建築物総合環境評価システムとして CASBEE が知られています。最近では、一定以上の大きさの建物を建てる際には、CASBEE による評価ツールを用いて作成した「建築物環境配慮計画書」の提出を義務づけている自治体があります。同じように、豪州では、豪州グリーンビルディング協会（GBCA）の提唱する Green Star という評価ツールが運用されています。

今月訪日された豪州塩ビ協会の MacMillan 専務理事から、豪州のグリーンビルディングの最近の話題をお伺いしました。

Green Star が発行されたのは、2003 年です。“グリーンなオリンピック”を掲げた 2000 年のシドニーオリンピックの際の建築物の環境基準がベースとなって作られたものです。その評価基準の中に、塩ビを使わないことを高く評価するといった塩ビに対するネガティブクレジットが入っていました。もちろん、これは塩ビに対する間違っただけの見方によるものです。一方、シドニーオリンピック後の調査によれば、塩ビ代替品を使ったことにより、1670 万豪ドルの負担増になったこと、そして、その代替の結果が必ずしも環境に良いことではなかったとの報告結果が出されたとのことです。

このような背景から、豪州の塩ビ協会は、木、鉄鋼、コンクリートなど他の素材の業界と共に、建築の分野における持続可能性とはどうあるべきか塩ビの環境側面はどのように評価されるべきかについて、GBCA と対話を続けました。そして、多くのステークホルダーと共に、評価ツール Green Star の見直し作業（レビュー会議）に参画したのでした。

そこで、ダイオキシン問題、リサイクル、安定剤、LCA 研究の進捗などについて、科学的情報の提供、業界の取組などについて話し合いを続けた結果、GBCA は、塩ビ代替品を



[豪州塩ビ協会HPより](#)

使ったからといって環境面での改善につながって
いなかったことを認めました。そして、GBCA は、
塩ビに対するネガティブクレジットは古い情報に
基づいた判断であったことを反省し、ベストプラク
ティスガイドライン (Best Practice Guidelines =
BPG) に沿った塩ビを使うことに対し、ポイントを
与えるとの新しい Green Star が 2010 年 10 月スタートすることとなりました。



BPG に沿った塩ビであることを示すロゴ

その BPG には、塩ビ樹脂の製造から廃棄段階までの管理が含まれており、塩ビ製品に
ついて第三者による認証を得る必要があります。例えば、水銀を使わない原料による塩ビ
樹脂であること、リサイクルが行われることが確保されることなどとなっています。塩ビ
業界としては、関連する 36 社で組織した Product stewardship を推進し、環境面について
コミットメントしていくことになっているそうです。

豪州では、世界の趨勢と同じように、リーマンショック以来、住宅着工件数は落ち込ん
だものの、現在は、移民の増加による住宅不足がみられ徐々に回復しているとのこと
です。もちろん、Green Star クレジットが得られないと建築物に塩ビ製品が使えないわけではあ
りませんが、塩ビ需要の 65% が建築分野で消費される豪州で、塩ビに対する見方が変わ
ったこの経緯は大きな前進だと思います。(了)

随想

チュニジアの若者たち

(社) 日本化学工業協会 若林 康夫

ルワンダ旅行記に続き、チュニジアを中心とした旅行記をスタートする予定です。チュ
ニジアでは国花から名前をとった「ジャスミン革命」によりベンアリ前大統領による独裁
政権が崩壊。新政権が発足したもののまだ流動的な状況が続いているようです。また、イ
スラム教国の中では西欧寄り、安定的と見られていたチュニジアの政治体制が崩壊し、
この影響は周辺のエジプトやアルジェリア、ヨルダン、イエメンなどアフリカ、中東のイ
スラム諸国におよび、この地域の今後の動向に世界の注目が集まりつつあります。

今回のチュニジア政権崩壊はベンアリ前大統領の 23 年間に亘る長期独裁体制に対する
反発が根底にあります。実際には食料品など生活必需品の物価高騰、若者を中心とする
高い失業率が直接の引き金となったようです。

2010 年 9 月、チュニジアに行きましたが、その際、首都チュニスにあるチュニス大学の
大学生、大学院生たちと話をする機会がありました。改めてその時のメモを見ると、今回
の政権崩壊につながるような若者の不満が散見されます。

取り止めのない内容ですがその時、学生たちと話した内容の一部をご紹介します。今回
のチュニジア政権崩壊がなぜ起こったのか、その背景が少しでも分って頂ければ幸いです。

イスラム教徒だそうですが、お酒を飲みますか？

飲んだことはありませんし、今後とも飲むことはありません。

しかし、最近、一部の若者の中にはイスラム教徒でありながらお酒を飲み、酔っ払って騒ぎ、他の人に迷惑をかける人たちがおり、社会問題になっています。

アルジェリアなどのイスラム教国はいまだに政治が安定せず、外国人の誘拐やテロ事件などが起こっていますが、そのことについてどのように考えていますか？

問題はその国の政治にあり、イスラム教に問題があるわけではありません。

イスラム教国でありながら、政治的に安定をし、発展している国もあります。

最近のチュニジアの若者はやはり西欧化が進んでいると思いますか？

チュニジア人はもともと、髪の毛の色は黒いのですが、ファッションや文化の西欧化だけでなく、チュニジア人の基本的な特徴である髪の毛を西洋人のように茶色く染める若者が出てきています。

ファッションや文化の西欧化は時代の潮流としてある程度仕方がないことだが、チュニジア人としての基本である体に手を加え、西欧化してしまうのは問題だと思います。

イスラム社会は今後、どのような発展をすると考えていますか？

今後ともイスラム教独自の宗教観を中心とした社会を維持していくと思いますが、世界的に見るとチュニジア人がヨーロッパを中心に進出しているように世界の国境という概念が薄まるとともに、宗教を超えた国際結婚も進み、その子供たち、更にその子供たちと世代を重ねていくと大きな流れとしてはイスラム教、キリスト教、ユダヤ教、仏教というような考え方や区分が薄まる、あるいは理解が深まるのではと考えます。

また、このことが将来の世界平和にもつながるのではないのでしょうか。

物価は安定していますか？

チュニジアは都市部とそれ以外の地域の家賃が極端に異なっています。

このため、地方出身者が都市部に出て生活をするためにはかなりの収入を得られる保証がないと出てくることはできません。

都市部に出てから仕事を探すのは仕事が見つかるまでの滞在費を考えると現実的ではありません。

食料品などについては都市部とそれ以外の地域で大きな差はありませんが毎年、インフレが進み価格が上昇しています。

農産物や海産物は国内で販売するより比較的近いヨーロッパへ輸出されるものが多く国内価格は輸出価格の変動に合わせて上下するため、安定しているとは言えません。

チュニジアの大学生の卒業後の進路を教えてください？

最近ではチュニジアも高学歴社会になってきていますが、高学歴になるほど就職先は少ないのが現状です。

チュニジアでは、家庭ではアラビア語。ほとんどの公立小学校では低学年はアラビア語

による授業ですが、中学年からフランス語の授業が始まります。高学年以降、数学と理科の授業は原則フランス語での授業となります。中学からはこれに英語の授業が加わります。高校、大学になると英語による授業も始まります。

しかし、残念なことに大学を卒業した人の就職先は極めて限られており、就職状況は非常に厳しい状況です。このため、大学卒業後、ヨーロッパ各国に移り、最初はアラビア語、フランス語、英語の通訳になり、その後、その国の企業に就職する人が多く、高学歴者の頭脳流出が問題となっています。

男性はヨーロッパなどに就職先を見つけることができますが、女性の場合はチュニジア国内に留まることが多く、せっかく大学を卒業しても就職先はほとんどありません。このため、女性は大学卒業後、大学院に進学する生徒が多くなっています。

大学まで進学した人は男性は学卒で就職する人が多いので、女性の方が男性以上に高学歴になる割合が増えてきています。

大学に進学する人の進路の特徴はありますか？

チュニジアは鉱物資源が豊富なため鉱業やそれを原料とした化学工業も盛んですが、それらほとんどの企業が外資系であり、求人のほとんどがワーカーで高学歴者の求人はほとんどありません。

また、経済発展が国としての重要課題ということもあり、経済関係の学部に進級する人の割合が非常に多くなっています。

現在、チュニジアが力を入れている産業はどのような分野ですか？

農業、鉱業は安定した生産を保っています。観光もヨーロッパを中心にリゾート地としての地位を確立しています。最近、伸びている分野として医療観光（Medical Tourism）があげられます。

チュニジア国内の医療系大学を卒業し、ヨーロッパで修業した医師、ヨーロッパの医療系大学を卒業した医師、ヨーロッパからやってきた医師により、美容整形を中心に、ヨーロッパよりかなり低額な医療費で、質の高い医療、快適な気候と滞在環境、さらに、チュニジア国内の観光を組み合わせたプログラムが用意されています。

将来、医療観光はチュニジアの経済を支える、主要産業になることが期待されています。

チュニジアが医療観光に力を入れているのはちょっと意外でしたが、チュニジア国内で売られていた外国人向けの英語雑誌にはリゾート医療施設の広告が数多く掲載されていました。

今回の政権崩壊によりチュニジアが大きくイスラム教を中心とした国家に変わるのか、これまでの路線を引き継ぎ、西欧諸国との良好な関係を維持するのか、或いは全く新しい体制を築くのか、今の段階では分かりませんが、若者たちの将来が見える社会になることを期待しています。（了）

編集後記

先日、本屋さんで本を眺めていたら、こちらに近づいて来る人がいたので少しよけました。するとその人は、私の立っていた所に積んである本に手を伸ばしました。そういうことか何気なく見ていると上の二冊を隣の山に移し三冊目を持って、行ってしまいました。

そこで私は「もしもし、その二冊を元に戻したらいかがですか。そもそも何冊目でも変わり無いでしょう」と言うかわりにその二冊を手に取りました。ふと見ると、『「つながり」を突き止める』と面白そうなタイトルです。パラパラと読んでみると何やらはまりそう。買っちゃうことにしました。何がきっかけになるか分からないものです。

私は、右手で山から新しい本を取り、左手の二冊をその上に戻しレジに向かったのですた…。やっぱりね。(^_^;) (漠)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL info@vec.gr.jp
